この学校では、こんな学びが始まる

多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

5校の仲間と遠隔・対面で ホンモノを学び合える「奥能登学」

石川県奥能登未来創造センター（仮称）

この改革が必要な背景

・奥能登地域では**年少人口が過去10年で43%減少**し、**2040年には奥能登5校の入学者が216人から97人に減少**見込み

・**教員数も限られ**、**震災後は校舎や学校外の学習機会にも制約**が生じており、進学から就職まで**多様な進路希望への対応が求められる**

事業概要（学びの変化）

奥能登未来創造センターを中心に、奥能登ならではのテーマを、「奥能登学」として学ぶ

✓ **5校共通の学校設定教科「奥能登学」**を新設し、里山・里海、復興、防災、発酵、医療福祉等を学ぶ

✓ 1年次は奥能登地域共通のテーマを学び、2・3年次は**各校の地域資源を生かした講座を相互に履修**

✓ 全国の企業・大学・NPOから**多様なプロフェッショナル**を招へいし、**センターでの集合学習と遠隔配信を組み合わせ**

5校の仲間と出会い、学校をこえて学び合える

✓ センターへの参集やオンライン接続で、**5校の生徒が探究成果を共有**する機会を設定

✓ 年度末には合同発表会を開き、**同じ関心をもつ仲間と出会う**

✓ 文化祭や球技大会、部活動も5校で合同実施し、人間関係が固定化しやすい**小規模校の課題に対応**する

進学も学び直しも、自分に合った学び方を選べる

✓ センターから5校へ、各校単独では開講しにくい科目や、習熟度別の対応が求められる科目の**遠隔授業**を配信することで、**自分のペースに合った学習内容の選択が可能に**

✓ 数学・英語などのリメディアル(基礎をやりなおす)科目の設定や、AI教材、地域人材の支援で基礎学力の定着も

社会の最前線で活躍する人と学び、将来の視野を広げる

✓ センターで、経営者、研究者、地域の担い手による**「社会共創ゼミ（仮称）」**を定期実施

✓ 復興の現場や能登の地域課題を題材に、**多様なロールモデルから社会構想を学ぶ**

✓ OECDと連携し**海外の高校生を招くフィールドスタディ**を行い、奥能登を世界とつながる学びの場にする

＜生徒の１日の流れ（例）※輪島高校（協力校）普通科２年Ａさん＞

【9:30】輪島高校で、習熟度別の「数学Ⅱ」（遠隔授業）

【10:30】輪島高校で、「論理国語」

（バス移動 ）

【13:20】センターで、「奥能登学」（集合型授業）

【16:30】センターで、放課後の「社会共創ゼミ」に参加

高校生の未来の姿（指標の例）

奥能登地域(2市2町)内の中学校からの進学率

（現状）60% ⇒ （R10）65% ⇒ （R13）70%

他校への普及方策

遠隔授業を活用した学びの拡充ノウハウを整理し、全県展開に向けた知見集として整理　等

主な連携機関

金沢大学、東京大学、経済同友会　等

（出典）都道府県の提出書類及び生成AIにより作成した画像をもとに文部科学省において作成

類型3